
とある普通な能力者達

藻部

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある普通な能力者達

【Nコード】

N6935Z

【作者名】

藻部

【あらすじ】

この作品はとある科学のレールガンに出る『学園都市』にいる（多分）普通の生徒たちの日常を、なんとなく描いてく（予定）です。後、魔術師は出てこないから（これ絶対）とある科学のインデックスあんまり関係ないかも。更新は不定期＋超遅い

キャラ紹介（前書き）

ちなみに、ネタバレ有り。（主に能力）

物語が進むごとに増えていたり、加わったりすると思います。

キャラ紹介

ネコ

彼の者は野良である。名前は随々時募集中。

一応メスという噂。

花はな沢わけ 甲かい斐ひ

役職：学生

能力名：翻訳リスントーカー通話 L V 3

内容：動物などの言語が分かる能力。

レベル3だと動物相手に話すこともできる。そのため動物に対していきなり怒鳴ったりして変視されることもある。

寿ことぶき 黄きなこ菜な子こ

役職：風紀委員ジャッジメント

能力名：サイコキネシス（漢字が分からない（泣）） L V 2

内容：物を浮かしたりするポピュラーな能力

レベル2だと警備ロボを浮かすくらい？全力でギリギリ人を少し浮かすことができる、とか。自分は浮かせれないとかw（本人談）

キャラ紹介（後書き）

感想で何かアイデアがあるとうれしいです。（特に漢字）

朝の目覚め

ピピピ・・・ピピピ・・・

目覚まし時計が鳴る。

「うん？」

もう朝か。早いな。

昨日夜更かししすぎたか？

「ニヤーン」

「おう、お前か」

目覚ましを取る。

ふむ、今は5時位か。我ながら早起きだな。

「よっしゃ、飯にすっか」

そういつと、俺は棚を探り出した。

「菓子パンしかねえ……。何でだよったく、しゃーねえな」

俺はパンと、隣にあったキャットフードを取り出す。

そして、キャットフードの袋を横に倒す。

「ほら、飯だぞー」

「にゃ〜」

猫はその袋に顔を突っ込んで食べ始める。

「それじゃ、学校にでも行くか」

そう言って立ち上がり玄関に行く。

寝たときからずっと制服だから、まあシワだらけだけど気にせず
に。

「それじゃあ言ってくるな」

猫に言って俺は立ち上がる。

「ああ、いいわすれるところじゃった。たなにあったインスタント
とエロ本、ときとうにしまつしといたからにゃ」

ブチッ「てめえふざけるのも大概にしろネコおおおお！」

・・・と、まあそんな感じだ。

この物語は、この朝っぱらからうるさい花^{はな}沢^{さわ} 甲^{かい}斐^ひが主役の、主に普通（だ）と思われる（能力者達の暮らしを描く物語（予定））です。

朝の目覚め（修正版）

DE。

「なんででめえここにいんだネ」

「¥」

「飯か。飯が目当てかお前」

「あつ、間違えにゃ。」

そう言って顔を搔いてから首をかしげて、

「？」

「意味無いだろ」

間違えてなかったとしても。

「えーっと、とりあえずは」

こっちも頭を搔いて聞いた。

「本どこだ」

「そこからかじゃお前」

「当たり前だ。いろいろ言いたい事はあるが、あれは友人に見つからないように慎重に買った至極の一品だ。あれのためなら、俺は命を捨てる覚悟がある」

「あんなどうしようもないものに何故そこまでするじゃ？」

いや、健全なる男子なら誰でもここまでのことはする(しない)。

とは言えどこの奴なら本当にしかねんな。学園都市って結構そういった物の規制が厳しいからな。

学生に悪影響を及ぼすものは余り入荷しないのだ。

だが、それだけの理由でスキルアウトになるような馬鹿を俺は知らない。

「でも安心するのじゃ。隠した場所はしっかり覚えてるじゃ」

「よしよくやった！出せ、早く、今すぐに！」

「急かすじゃよ」

ネコが呆れた感じで言いながら本を取りに行く。

「たゞしかゝこのにゃたりに」

「おい、はやくしろよー」

ネコに言ってから俺はテレビをつける。

今日の天気は、晴れか。

ちなみに朝食は『激甘！蜂蜜漬けシユガートースト（粒あん入り）』
。死にそうなくらい甘い。そしてマズイ。てか何、蜂蜜漬けて。
ふざけてんの。

「　　」

「おつ。サッカー勝ったのか。珍しいな」

「　　？」

「ほー。野球日本一決定な！。もうそんな時期か」

「　　」

「バレー負けたか。まあな、昨日がんばったし、仕方ないな」

「そつだにゃ。仕方ないにゃ」

気付けば横で、ネコと一緒にテレビを見ていた。

「おー。バスケだにゃ〜。始めてみたにゃ〜」

「おいネコ。何やってんだ」

「TV中継にゃ」

「視聴または実況な。本はどうした」

「売り上げがいいのは推理ものにゃ」

「確かこの辺にたまねぎ閉まってたな」

「ごめんなさい」

ネコが謝った。土下座のように見えるポーズを取っている。

「・・・言い訳は聞いてやるっ」

「た、確かににゃ、あそこのにゃ、バッグの中に入れてたんだにゃ。そしたら無くなってて」

「よし分かった」

猫を持ち上げ、たまねぎを口に近づける。

「死ぬか」

手をジタバタ振るネコ。

「ごめんにゃさいごめんにゃさいごめんごめんごめんごめんゆるしてにゃーにゃー」

と、そこで妙なことに気付く。

「お前今『バッグ』っていたか？」

「ふえ」

ネコが泣き顔で（猫が涙流すの始めてみた）振り向いた。

「グスツ、そ、そうにゃ。花柄のいかにも女物のバッグに入れたのにゃ」

そこで、昨日何があったか思い出す。

俺は友人たちと俺の部屋でオールしてたんだ。

それで花柄を持ってた奴と言えば…

「ネコ」

「にゃい？」

「たまねぎ食いたいか？」

「い、いやだにゃ」

「そうか・・・分かった」

ガララッ！

そして俺はベランダの窓を開ける。

「I!CAN!フライア・ウエー……イ……!」

「Nya~~~~~……!」

そして俺は飛び出した。

自分の部屋(マンションの12階)を。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6935z/>

とある普通な能力者達

2011年12月23日15時59分発行